

神奈川県栄養士会 栄養学術研修会

「高齢者の摂食障害の攻略法を考えてみる」

総合川崎臨港病院 水口尚子

1月19日に栄養学術研修会を開催しました。講師に、ちゅうざん病院の吉田貞夫先生をお迎えし、「食と排泄を楽しく学ぶ栄養ライブ」として摂食と排泄についてお話をいただきました。

前半は「認知症の摂食障害とその対応～食べてもらえないとき、あなたはどうする?～」と題して、摂食障害の原因となる認知症について先生の著書を引用しながら、そして ESPEN のガイドラインを絡めながら解説してくださいました。

高齢者施設や病院で働く栄養士は、摂食障害の高齢者が年々増えていることを肌で感じているこ

とと思います。私が働く病院でも、入院患者の平均年齢が上がっており、それに伴って認知症の方も増えています。摂食障害の患者様に少しでも食べてもらえるように、食事形態を変えたり、姿勢を整えたり、栄養補助食品に頼ったりと奮闘する毎日です。「必ずこうすれば食べる!」という明確な答えというものが出ない性質の問題であることは重々理解しているつもりでも、上手いかないとモチベーションは下がり気味に。しかし、本公演で認知症に関する基礎知識の確認・習得、そして認知症以外の原因を知ることで、どのようにアプローチすればよいか、順序立てて考えることができるようになって感じました。

午後の公演では「食べること、排泄することを支える栄養管理の工夫」と題して、排便コントロールのお話をしてくださいました。

下剤は手軽で効果も明確ですが、それと同時に下剤の調整が上手くいかず、下痢になってしまう患者さんをたくさんいます。下剤に頼らない排便コントロールの方法としてプレバイオティクスや、プロバイオティクスを活用することが自然に近く良い方法だと思います。しかし食費がかさむことを忌避して、常用するまでに至らない施設もあると思います。

今回、私が先生のお言葉で気づかされたこと、それは「モノよりヒトの方が、お金がかかる」です。排便がスムーズになる事でメリットを得られるのは、なにも患者さんだけではありません。更衣が必要な患者さんの対応、おむつ交換や浣腸・摘便の処置で失われる看護師さん達の時間のなんと多い事か。人手不足に悩む施設全体で、排便コントロールが改善することができれば、かなりのコストを削減することが出来ます。栄養科もコスト管理が必要な時代、目先の利益に囚われず大局を見据えることが出来るようになっていきたいものです。

10時から16時までのボリュームの大きな研修会でしたが、吉田先生の笑顔とほがらかなお人柄、たまにはさまれるブラックジョークに笑いながら、楽しく学ぶことができました。



写真:ひとつとして同じ公演(講演)は無い、ライブです!と語る吉田先生